

なっている。2)のクラスターの意味することは、高層住宅というより集合住宅についてのものである。集合住宅、マンションも2)に含まれている。

次に1)のクラスターについて検討しよう。Aには、高速道路、道路、バイク、車という語があることからしても、建物の外の音に関心があるとともに、部屋、窓、中などから見て、この音を建物つまり住居の中で聞いている状況であろう。ここで、騒音はまず高速道路と大きな類似度で結合している。Bは、語の集まりとしてはイメージが明かでないが、高層住宅独特のビル風についての記述が関係しているのであろう。3)に現れる語は、いかにも「音」についての感想に現れそうな語だが、クラスターとしては意味を与えにくい。

3. 2 一戸建て住民についての検討

Sの周辺の一戸建て住民の感想中の語のクラスターを表2に示す。ここでは、頻度は10以上としている。対象語数47、対象となる回答者数288である。②の方が有効回答票数が多く、頻度の閾値も低いにもかかわらず対象語数が少ないことは、音への関心が②で低いことを示しており、当然のごとく①に有ったE、Gのようなクラスターはない。また、足音は、①では17位に現れるが、②では100位までに入らない。これらのことに、高層住民と一戸建て住民の間の音環境の意識の差がすでに端的に現れている。

ここでもクラスターは樹形図の最上位での枝別れに着目すると、1) A～F、2) G、3) H、4) I のように分けられる。1)に属するクラスターは、全体としてみると家の内外の広がりの中で音に関係している。クラスターAは、生命のあるものであり、音の好ましくない面にかかわる語がない。Bでは、生活の場における音であるが、家の中で音を発する物の具体的名前を挙げていない。(それは、Hにみられる。)頻度順位10位までの語のうち9語がここに含まれる。自分と他者特に交通騒音にかかわる語がみられる。騒音はバイク、車、うるさいと同じクラスターに入っている。騒音とバイクや車が同時に語られるのが、軒先まで車の入り込む一戸建て地区の特徴になっているわけである。Cは、高速道路、深夜の語が目立つ。Dは、住居の近くの道路とそこでの工事、人や車の通行に関係しているのであろう。Eは、生活の場での音についての、観察としての記述であろう。2)のGは、クラスターとしての意味はつけにくい。3)のHでは、家の中の発音物を挙げ、隣近所との関係にかかわる語が見られる。

4. おわりに

高層住民の音意識を調べたところ、棟内での特に隣接した他家との間での音の問題に関心が強いことが分かり、これは、一戸建てにおける自分の家と近所の広がりの中で音を考えているものと、大きな違いである。今後、都市の音環境を考えると、高層（あるいは集合）住宅住民の関心が、棟内に向いがちなことに留意する必要があるであろう。また、行政機関へ持ち込まれる騒音苦情を分析する際に、それが住民にとっての実状をどこまで反映しているかを推定する手がかりがえられたといえる。なお、本研究を行うにあたり、京都大学の平松幸三博士にご討論をいただきました。記して謝意を表します。

文 献

- 1)大井ら：第44回本学術講演会第IV部門(1989)
- 2)大井ら：土木学会論文集、(389)、83/92(1988)
- 3)須賀ら：環境情報科学、17、38/43(1988)

表2 一戸建て住民の使用語のクラスター

A	B	C
鳴き声 犬声 子聞 鳥 うるさい	騒音 バイク 車 家 自気 静人 聞音 く楽 昼響 夜間	近高感深 速速る 道道路 路路 夜

→

D	E	F	G	H	I
通入道工住 る路事む	生環 活境 夏中前	困 る	話眠 し声る	テステ近迷 レテレ所惑 ビレオ	考え アノ 気を使 う 少ない 住宅

→